

授業科目	*小児看護学実習（2023年度入学生）					実務家教員担当科目	-							
単位	2	履修	必修	開講年次	3~4	開講時期	後期・前期							
担当教員	樋口 由貴子、藤本 奈緒子、永野 英美													
授業概要	<p>既習の知識・技術・態度をもとに、健康問題や障がいのある子どもとその家族が、その人らしい生活が送れるよう、子どもの成長発達や健康レベルを考慮し、子どもとその家族のニーズに応じた看護を実践する能力を修得する。</p> <p>実務家教員として、病院での小児看護経験のある教員が、小児に対する看護経験を踏まえ具体的な例や臨床でのモデルとなり学生の学びを支援する。</p>													
授業形態	対面授業			授業方法	実習									
学生が達成すべき行動目標														
標準的レベル	<p>健康障害をもった子どもと家族に対して、事例を受け持ちながら少なくとも1つ以上の看護問題を明確にし、看護計画をたて看護過程を展開できる。</p> <p>詳細は、実習要項参照。</p>													
理想的レベル	健康障害をもった子どもと家族に対して、事例を受け持ちながら発達段階に適した個別性のある看護を展開できる。													
評価方法・評価割合														
評価方法			評価割合（数値）			備考								
試験			0											
小テスト			0											
レポート			40%											
発表（口頭、プレゼンテーション）			10%											
レポート外の提出物			0											
その他			50%			看護実践など実習評価表を基に評価する								
カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング														
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31304J			
学習課題（予習・復習）									1回の目安時間（時間）					
これまでの小児看護に関する内容を復習する。 詳細については、小児看護学演習最終日に提示する内容を参照。									0					
授業計画														
第1回	<p>2週間の実習期間、原則として患児1名を持ち、受け持ち患児の状態と病棟の状況に即して講義・演習で学んだ知識や方法を基に実践する。</p> <p>具体的な方法及び実習内容については、実習要項で説明する。</p> <p>また、障がい児施設実習では、障がい児施設の概要と障がいを持つ子どもとその家族の生活を知ることにより、障がい児とその家族への看護を考察する。</p>													
テキスト	小児看護学概論、小児看護方法論、小児看護学演習で使用した教科書													
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	実習中適宜紹介します。													

課題に対するフィードバックの方法	実習中適宜行います。
学生へのメッセージ・コメント	実習中は自分自身の健康管理に十分留意してください。 また、受け持つ子どもと家族への安全・安楽に配慮した行動と倫理的態度、日々の学習に真摯に向き合う姿勢を持ち、積極的に学習に取り組んでください。